

令和6年度 事業計画

螢ヶ丘保育園

○ 定員112名

園児数

108

	年齢	クラス	人数	法基準 対人数	保育教諭	教諭担当+補助 (実際)	
幼児	5歳(年長)	ゆり	28	30	0.93	2	1
	4歳(年中)	もも	19	30	0.63	1	1
	3歳(年少)	ちゅうりっぷ	21	15	1.40	2	1
乳児	2歳	きりん	14	6	2.33	2	1
	1.2歳	ぱんだ	10	6	1.67	2	1
	1歳	あひる	13	6	2.17	3	2
	0歳	ひよこ	3	3	1.00	2	2
計			108		10.13	14	9

職員合計 33

事務所 4

給食 6

* 一時預かり事業(幼稚園型・一般型)・加配・延長保育 対応保育教諭 各1名

* 補助加算対象 ・乳児・主幹・事務・小学校接続・栄養士・研修

☆ ・園長1 ・副園長1・主幹保育教諭1・指導保育教諭2・保育教諭18

・栄養士1・調理員3 ・保育補助2 ・用務員 1

5年度 常勤 退職保育教諭 1名

6年度 常勤 育児休暇復帰 1名 短時間パート保育教諭 時間延長

○ 事業の内容(概略)

1. 保育の充実・質の向上

・業務省略化において システムの充実

・研修の実施(園内外)

・わらべうたの年間計画・課業

・お話を楽しむ会

・課業の計画

・毎身体操

・食育計画の充実 畑の活用

(ネクトと連携の農業体験継続)

2. 保育環境の整備

・避難、安全、防犯訓練

・発達の保障

・時間の保障

・環境・空間の保障

・ほたるのお家の活用

3. 子育て支援

・おしゃべりサロン

・園庭開放

・一時預かり事業

・懇談会

・絵本の貸し出し・個人面談

4. 地域・異年齢との交流

・園の行事を通じて

・夏祭り・地区ふれあい祭り

・園庭解放 相談業務

・地域主任民生児童委員との連携

・保健センター保健師との連携

・老人施設訪問 交流

5. 小学校との連携

・公開保育

・小学校訪問、授業参観

・幼保小中服織地区一貫教育連携

・学校評価委員会

6. 施設整備他

・運動遊具の補修・新調

・保育環境充実(人的・物的)

令和6年度 蛭ヶ丘保育園

グランドデザイン

目指す子どもたちの姿

幼児

よく見る よく聞く よくする子

乳児

よく食べ よく寝る よく遊ぶ子

教育・保育目標

頭も身体も使える子ども

目指す子どもたちの姿

- ・自己肯定感を高める子
- ・明るく伸び伸びと生活する子
- ・自分らしく表現する子
- ・楽しんで関わる子

<目指す子どもの姿>

自分で考えて行動する子

- ・好きな遊びを見つけて楽しむ
- ・いろいろなもの、人、ことに興味をもつ
- ・自分の思いを伝えようとする
- ・身の回りのことを自分でしようとする。

思いやりのある子

- ・友達に親しみをもち、関わる
- ・人の話を聞こうとする
- ・相手の気持ちに気づく
- ・身近な自然や生き物に触れ心を動かし感動する

明るく元気な子

- ・健康で安全な生活をする
- ・戸外で元気に体を動かして遊ぶ
- ・進んで挨拶をする
- ・友達と協力して遊ぶ。

感じて

聞いて

見て

試したい

不思議だな

面白いな

重点目標

～ 五感を使う！！～

頭もからだも使ってよく遊ぶ子ども

解りたい

知りたい

「自然がいっぱい」四季を通して

新聞谷川の歩道で遊ぶ・藁科川の土手や河原で遊ぶ

職員連携

子どもの傍らで

- 子どもの行為を深く見る
- 子どもの感性を深く感じる
- 子どもの思いを深く聞く
- 子どもの育ちを支える

研修テーマ ～課業の充実 資質向上～

- 幼児『環境認識』子どもが自らの願いの実現に向けた環境を作りだすことができるような工夫
- 乳児『わらべうた』～年間を通して資質向上をめざす～
- ほっくりとした愛着関係の中で培う担当との関係

地域・保護者と一緒に子どもを守り育てる園

地域

共に守ろう

お話を楽しむ会・地域行事に参加
施設訪問・災害時での避難協力

家庭 ゆっくり

話そう

～子どもの良いところを見つけ～
面談・行事参加等

ほっくり

つながろう

公開保育・公開授業・研修参加

安心・安全

支えよう
サポートプラン
個別支援計画

特別支援

近隣園・小学校・中学校

服織地区一貫教育

一緒に遊ぼう

園庭開放
おしゃべりサロン
育児相談

地域子育て支援

教育保育計画書

2024

年度

螢ヶ丘保育園

理念	子ども一人ひとりの人権と主体性を尊重し、家庭と地域社会と連携しながら、ゆっくりほっぴり健やかな成長を支える				
方針	幼児 よく見る よく聞く よくする子 乳児 よく食べ よく寝る よく遊ぶ子				
目標	・五感を使ってよく遊ぶ子ども				
基本的社会的責任	人権尊重	説明責任	情報保護	苦情処理・解決	
・乳児保育を含む3歳未満児の受け入れ推進。 ・延長保育・休日保育のニーズへの対応。	・子どもを一人の人として尊重し、自己肯定感をもてるように努める。	・地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に、当該保育所が行う保育の内容を適切に説明する。	・正当な理由なく利用者又はその家族の情報を漏らすことのないよう、職員に対し、定期的に研修を行う。 ・情報の管理を徹底し、小学校・その他機関に対して子どもの情報提供を行う際には、あらかじめ文書によって子どもの保護者の同意を得る。	・苦情対応窓口、担当者、苦情解決責任者、第三者委員の設置を行うとともに、苦情解決体制を全職員・利用者へ周知する。	
☆発達過程		☆主な行事			
0歳児、1、2歳児、3～5歳児 縦割りをふまえた様々な活動 当園の理念・教育・保育方針・目標に基づき年間指導計画を作成 子ども一人ひとりの発達を踏まえて、養護と教育一体の保育の展開		・入園式・始業式・こいのぼり・七夕・ままつり ・運動会・劇遊び会 ・節分・ひな祭り ・卒園式・終業式 親子参加 ・保育参加 ・親子遠足 ・懇談会・個人面談			
年齢別教育保育目標					
0歳児		1歳児		2歳児	
・担当制を通じて、しっかりした人間関係をつくる。 ・遊びや食事を通じて、五感覚の発達を促す。 ・快・不快を感じることができる環境をつくる。 ・たくさん動けるような環境を整える。		・一人遊びを十分に保障する。 ・多様な経験を通じて、言葉を獲得できるようにする。 ・基本的な生活習慣の獲得に向かう環境をつくる。 ・探索活動を十分に保障する。		・友だちへの関心が十分に育ちつながりが持てるようになる。 ・言葉で表現する喜びを味わえるような環境をつくる。 ・基本的な生活習慣が快い感覚として身につくようになる。 ・みたく・つもり遊びを十分に保障する。	
3歳児		4歳児		5歳児	
・遊びや身近な生活経験を通じて、仲間との関係を育てる。 ・基本的な生活習慣の自立に向かう環境をつくる。 ・身体全体を使った活動を十分に保障する。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で表現する環境をつくる。		・集団生活を通じて、自立に向かう環境をつくる。 ・運動や制作を通じて、言葉を獲得できるようにする。 ・自分の思いや考えを言葉で相手に伝えられるようになる。 ・想像の世界を豊かにしていく環境をつくる。		・基本的な生活習慣を確立できるようにする。 ・仲間同士が協力する活動を十分に保障する。 ・イメージを豊かに持ち、それを表現する環境をつくる。 ・就学に向けた社会性を身につけられるようになる。	
養護に関わるねらい及び内容					
ねらい	生命の保持		情緒の安定		
	・①一人ひとりの子どもが、快適に生活できるようにする。②一人ひとりの子どもが、健康で安全に過ごせるようになる。③一人ひとりの子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようになる。④一人ひとりの子どもの健康増進が、積極的に図られるようになる。		・①一人ひとりの子どもが、安定感をもって過ごせるようになる。②一人ひとりの子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようになる。③一人ひとりの子どもが周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようになる。④一人ひとりの子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようになる。		
内容	・一人ひとりの子どもの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる場合には速やかに適切に対応する。 ・家庭との連携を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。 ・清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して、子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力しながら子どもの発達過程等にに応じた適切な生活のリズムがつけられていくようになる。 ・子どもの発達過程等に応じて、過度な運動と休息をとることができるようにする。また、食事・排泄・衣服の着脱・身の回りを清潔にすることについて、子どもが意欲的に生活できるように適切に援助する。		・一人ひとりの子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉かけを行う。 ・一人ひとりの子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。 ・保育教諭等との信頼関係を基盤に、一人ひとりの子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信を持つことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。 ・一人ひとりの子どもの生活のリズム、発達過程、保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようになる。		
	教育に関わるねらい				
視点	《健やかに伸び伸びと育つ》	《身近な人と気持ちが通じ合う》		《身近なものに関わり感性が育つ》	
	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤を養う。	受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。		身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。	
乳児	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤を養う。① 身体感覚が育ち快適な環境に心地よさを感じる。 ② 伸び伸びと体を動かし、這う・歩くなどの運動をしようとする。 ③ 食事・睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。	受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。① 安心して関わりの中で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ② 体の動きや表情や発声等により、大人と気持ちを通わせようとする。 ③ 身近な人と親しみ関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。		身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心を持つ。 ② 見る・触れる・探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 ③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。	
	《健康》	《人間関係》	《言葉》	《表現》	《環境》
領域	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤を養う。	他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て人と関わる力を養う	経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話や言葉を聞くことによる意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。	周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生かして取り入れていこうとする力を養う。

3歳未満児	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤を養う。① 明るく伸びのびと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 ② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 ③ 健康で安全な生活に必要な習慣に気づき、自分でしてみようとする気持ちが育つ。	他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て人と関わる力を養う① 園での生活を楽しく、身近な人と関わる心地よさを感じる。 ② 周囲の子どもたちへの興味や関心が高まり、関わりを持つようとする。 ③ 園の生活の仕方に慣れ、決まりの大切さに気づく。	経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くことによる意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や① 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。 ② 人の言葉や話などをよく聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。 ③ 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやりとりを通じて身近な人と気持ちを通わせる。	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとする。 ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。	周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
3歳以上児	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤を養う。① 明るく伸びのびと行動し、充実感を味わう。 ② 自分の体を十分に動かし、すすんで運動しようとする。 ③ 健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、見通しをもって行動する。	他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て人と関わる力を養う① 園の生活を楽しく、自分の力で行動することの充実感を味わう。 ② 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり協力したりして、一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感を持つ。 ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。	経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くことによる意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを感じる。 ② 人の言葉や話をよく聞き、経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 ③ 日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし保育教諭や友だちと心を通わせる。	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。① いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 ③ 生活の中でイメージを豊かにし、さまざまな表現を楽しむ。	周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。① 身近な環境に親しみ自然と触れ合う中で、さまざまな事象に興味や関心を持つ。 ② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり考えたり、それを生活に取り入れようとする。 ③ 身近な事象を見たり考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

子どもの健康支援		
<p>《子どもの健康状態並びに発育及び発達状態の把握》</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態並びに発育及び発達状態について、定期的・継続的に、また必要に応じて随時把握する。 保護者からの情報とともに、登園時及び保育中を通じて子どもの状態を観察し、何らかの疾病が疑われる状態や傷害が認められた場合には、保護者に連絡するとともに、嘱託医と相談するなど適切な対応を図る。 子どもの心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候が見られる場合には、市町村や関係機関と連携し、児童福祉法第25条に基づき、適切な対応を図る。また、虐待が疑われる場合には、速やかに市町村または児童相談所に通告し適切な対応を図る 	<p>《健康増進》</p> <p>《健康増進》</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康に関する保健計画を全体的な計画に基づいて作成し、全職員がそのねらいや内容を踏まえ、一人ひとりの子どもの健康の保持及び増進に努めていく。 子どもの心身の健康状態や疾病等の把握のために、嘱託医等により定期的に健康診断を行い、その結果を記録し、教育・保育に活用するとともに保護者が子どもの状態を理解し、日常生活に活用できるようにする。 	<p>《疾病等への対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医や子どもかかりつけ医等と相談し、適切な処置を行う。 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、予防等について協力を求める。 アレルギー疾患を有する子供の保育については、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき、適切な対応を行う。また、食物アレルギーに対して、関係機関と連携しての体制構築など、安全な環境の整備を行う。 子どもの疾病等の事態に備え、医務室等の環境を整え、救急用の薬品、材料等を適切な管理の下で常備し、全職員が対応できるようにする。

食育の推進	
<p>《園の特性を生かした食育》</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とする。 子どもが生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していくことを期待する。 乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育計画を全体的な計画に基づいて作成し、その評価及び改善に努める。 	<p>《食育の環境整備等》</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つよう、子どもと調理員等との関りや、調理室など食に関わる保育環境に配慮する。 保護者や地域との多様な関係者との連携及び協働の下で、食に関する取り組みが進められる。また、地域の関係機関等との日常的な連携を図り、必要な協力が得られるよう努める。 体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人ひとりの子どもの心身の状態に応じ、嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応する。

健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 健康及び発育発達状態の定期的、継続的な把握。 0歳児月2回、他クラスは月1回の嘱託医による内科健診と、年2回の歯科検診の実施。 登園時及び保育中の状態観察、また異常が認められたときの適切な対応。 年間保健指導計画の作成と実施。
環境・衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> 温度・湿度・換気・採光・音などの環境を適切に保持。 施設内外の設備・用具等の清掃及び消毒。 感染予防対策指針の作成と実施及び保護者との情報共有。
事故防止・安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の設備・用具等の安全管理及び自主点検。 毎月消防訓練の実施。
子育て支援	<p>保護者懇談会 個人面談(適宜) 連絡帳等による情報交換</p> <p>園便り・クラス便りの発行 ホームページ インスタグラム</p> <p>クラスの様子報告(掲示物等) 地域の育児支援(おしゃべりサロン)</p> <p>実習生・職場体験・子育て支援員の受入れ ウェブサイトの運営</p> <p>利用者調査の実施と公表 園見学・問い合わせへの対応 保護者連絡システム</p>
職員の研修	<p>キャリアパス研修(マネジメント・乳児保育・幼児保育・障害児保育・食育、アレルギー対応・保健衛生、安全対策・保護者支援、子育て支援・保育実践)</p> <p>静岡市私立保育園長会主催研修(園長・保育一般・給食関係・保健活動・新人研修等)</p> <p>各種保育教諭研修会 その他の研修(適宜)</p> <p>園内・園外研修(運営方針・行政施策・保育実践・応急救護・防災・防犯・その他専門性を高める研修)</p>
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」への理解を深め、一人ひとりの育ちを支援する。 園児と児童の交流を通じて、小学校生活に期待感をもてるような学びの接続を図る。 服織学区幼保小中一貫教育にて連携 公開保育参加見学交流 行事や見学等による交流
教育保育内容等の評価	<p>園理念・教育保育方針・教育保育課程の理解</p> <p>第三者評価結果の理解 利用者調査結果の検証、回答書の公表</p> <p>学校評価委員による評価</p> <p>園の評価(教育保育課程・事業計画の策定)</p> <p>教育保育課程の明示</p> <p>保育教諭等の評価(自己評価チェックシートによる自己評価)</p>

年間行事計画

令和6年度

月	行事内容	食育	月	行事内容	食育
4月	入園・進級懇談会	春のメニュー (筍・鱈・苺使用)	10月	交通安全教室(幼児) 年中視力検査 歯磨き指導 絵画展(る・く・る) ハロウィンパーティー	青空給食 ハロウィンメニュー
5月	こどもの日 内科健診 母の日	柏餅作り こどもの日メニュー 八十八夜 (抹茶クッキー) 白・茶色の砂糖の違い 青空給食 さやえんどうをむく	11月	東海地震注意情報 引き渡し訓練 内科健診 七五三お祝い 秋の遠足(登呂) 親子ふれあい遊び 動物教室(未定)	非常食で炊き出し 和風だしの試食会 和食の日メニュー スイートポテト作り さつまいも収穫
6月	歯科検診 園外保育(蛭ヶ丘へ) (ザリガニ釣り) 父の日	絹・木綿豆腐の違い カレー作り 梅雨メニュー (紫陽花ご飯・ カタツムリバーグ 紫陽花ゼリー)	12月	歯科検診 花育教室(年長) クリスマス会 陶芸教室(年長)	冬至(かぼちゃサラダ) ケーキ作り クリスマスメニュー (リースバーグ)
7月	プール遊び 七夕まつり 七夕見学(七間町通り) 夏まつり	七夕メニュー 遠藤・トウモロコシ をむく 夏まつりメニュー (焼きそば・ミニドック)	1月	2.3.4歳児保育参加月 人形劇観劇(年長) サッカー教室(年長) (蛭ヶ丘と合同)	もちつき 七草がゆ コンソメ・鶏ガラの 飲み比べ
8月	プール遊び	冷やし中華 トウモロコシの皮むき 枝豆切り	2月	節分 お別れ遠足(年中・長) (いちご狩り) 入園説明会	節分メニュー (鬼面ライス) 離乳食の試食会
9月	敬老の日 0.1.5歳児保育参加月	お彼岸(おはぎ) 月見団子作り 3種の削り節比べ 秋のメニュー (秋の山ご飯・ぶど う・鮭フライ・きのこ スープ)	3月	ひなまつり(お茶会) お別れ会 卒園式	ひな祭りメニュー リクエストメニュー お別れ会 (ハンバーガー・ポテト) 春のお彼岸(おはぎ) お祝いご飯(赤飯)

*毎月 身体測定(月末) / 避難・安全・防災訓練 / 誕生日はその日に / ヤマスポーツ(月2回 幼児)

*月一回程度 おしゃべりサロン子育て支援

☆おにぎり作り(毎月)